

第 16 回 『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』
——スポーツで社会を変えるために今、必要なこと——

【第 2 回】

テーマ:「ラグビー女子日本代表が見せた“世界 8 強”への可能性。」

RWC2023 フランス大会の“ジェイミーJapan”は？」

講師: 村上晃一氏 (ラグビージャーナリスト)

講師: 正面健司氏 (ラグビー男子 7 人制・15 人制元日本代表)

司会: 平尾剛氏 (神戸親和女子大学教授 ラグビー元日本代表)

日時: 2022 年 11 月 23 日 (水・祝) 19:00~20:30

会場: 神戸国際会館セミナーハウス



スポーツ界の幅広いジャンルから知見豊かな方々をお招きし、各種スポーツ界の現状や人材育成のポイントを学ぶ

『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。第 16 回となる今年のテーマは「スポーツで社会を変えるために今、必要なこと」。

今期 2 回目の『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』も前回同様 Zoom によるオンラインと、神戸国際会館セミナーハウスでのリアルとのハイブリッド形式で実施致しました。開演の 3 時間前からカメラや音響装置などを含め、会場設営を開始。登壇者やリアル参加者用にコロナ感染対策備品も配し、講座中に映し出すスライドの確認などを行い、開演の時を待ちます。去年はオンラインのみでの開催となった『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』ということで、開演を待ちきれない様子で開場時間前に到着する参加者もチラホラ見られました。

そんなラグビーファン待望の今回のテーマは「ラグビー女子日本代表が見せた“世界 8 強”への可能性。RWC2023 フランス大会の“ジェイミーJapan”は？」。講師に、ラグビー解説はもとより、SCIX の講座やイベントでもおなじみのラグビージャーナリスト・村上晃一氏と、『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』には初登場ですが、ラグビーファンなら皆さんご存知、男子 7 人制、15 人制両方の代表経験を誇る正面健司氏をお迎えしました。司会は神戸親和女子大学教授であり、SCIX ラグビークラブでのコーチ経験もある、ラグビー元日本代表・平尾剛氏。SCIX 理事・美齊津氏の合図に



より、お三方が拍手の中会場入りし、平尾氏の挨拶により今期2回目の『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』が開幕致しました。



平尾氏が自己紹介、そして講師お二人を紹介した後、最初のトピックはジェイミージャパンの試合について。ちょうど10月29日に行われた、ニュージーランド代表との一戦は前回の『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』開催日と重なり、当日はSCIXスタッフもその試合結果に興奮していたことは記憶に新しいですが、ここでこの2ヶ月で開催されたテストマッチをおさらいすると下記のような結果となっています。

◎男子日本代表 秋の試合日程と結果

10月1日 22●34 オーストラリアA
10月8日 21●22 同
10月14日 52○48 同
10月29日 31●38 ニュージーランド代表
11月12日 13●52 イングランド代表（英ロンドン・トゥイッケナム）
11月20日 17●35 フランス代表（フランス・トゥルーズ）

正面氏はこの結果に「勝つか負けるかでいくと負ける試合が多かったが、昔では考えられないような点差で、力をつけているなと感じる」とコメント。平尾氏も「ひと昔前なら、この強豪国相手なら『負けて当たり前』という感覚だったけど、日本のファンのなかには負けてがっかりという人がたくさんいるくらい日本代表に期待できるようになって、期待値もかなり上がっている印象」と、客観的事象を例に挙げながら同調。さらに、村上氏はラグビージャーナリスト

ならではと言える観点で、この秋のテストマッチについてこう言います。「10月にオーストラリアA代表と3試合あった。この強化試合は非常に良かったと個人的に思っている。日本は他国と比べるとトップレベルの国と試合をする機会が少なかったのが、去年から急速にその差を詰めていっているという印象。オーストラリアA代表は若手で、次の代表を狙うようなメンバーなので必死で試合をする。でも日本よりも強くて。そういう部分が対戦相手としてちょうど良かったと思う。そして、そのあとの3カ国との対戦でいくと、それぞれのチームの置かれている状況やモチベーションが違うという意味で、この3戦も非常に良かったと個人的には思っている。フランスはベストメンバーだけど試合が立て込んでいて疲れていた。イングランドはW杯のことを踏まえて必死。そんなチームとの対戦でこういう結果が出せたというのは、今の日本代表チームの状態を見るのに、非常に良い6試合だったと思う。ここでどれくらいのスタンダードが必要なのかがわかったと思う。もちろん勝った方が盛り上がるけど、あの状態ではまだ勝たないで良かったと思う」。

さらに「もう日本は『善戦』っていう言葉は使ったらあかんと思う（笑）」と、村上氏も日本代表のレベルアップぶりに同調します。



続いてイングランド代表との試合についての感想や、気になった選手についての話へと展開し、平尾氏は、イングランド代表は元日本代表監督のエディ氏が率いていることもあり、日本代表チームの弱点を熟知しており、戦術面でも弱いところを

うまくついてくる、故に序盤からやられたとイングランド戦を考察。正面氏もイングランドのディフェンスの出だしの良さには同意しつつも、「そこまで分析されても、あそこまで戦えるっていうのが日本代表も強くなっている証拠。結構やられたけど、とはいえ、良い戦いをしていたと思う」と改めて日本の進化を称賛します。その一方で、「2019年のW杯では凄いミスが少なかった印象。このレベルになるとちょっとしたミスがペナルティにつながる。そういう点で、この試合はミスがちょっと多かった」とミスの多さを指摘。格上と戦い勝ち上がっていくには必然の課題ともいえるところでしょう。

このミスの話の流れで、気になった選手として、まず始めに名前が上がったのが、コベルコ神戸スティーラーズのメンバーであり、2019W杯日本大会でも活躍した山中亮平選手（FB）。山中選手のロングキックは良い武器であるのと同時に、モーションが大きいこともあってミスが目立つ笑」と会場の笑い誘うと、すかさず、平尾氏も「フルバックのミスって目立つんですよ（苦笑）」と自身もフルバックだったことから、実体験に基づいた発言で、同じくフルバック経験のある正面氏にも同意を促し、正面氏もこれに大きくうなずきます。「山中選手は前

回（W杯）で最後かと思っていたけど、あの左足は武器だと思う」と正面氏。「あれだけ使われるっていうのは信頼の証だと思う」と村上氏も山中選手の存在を評価します。

ほかに気になった選手として、村上氏は、「長い期間一番良い状態を保っていたと思う」と、これまた2019W杯日本大会でキャプテンを務めたリーチ マイケル選手（FL）を挙げ、さらに、来年のW杯に出るであろう二人のスタンドオフが、イングランドの高いプレッシャーを経験できたのは良かったと思うと、李 承信選手と山沢拓也選手について語りました。

平尾氏は両ロックのJ・コーネルセン選手とW・ディアンズ選手について「まだ荒削りだけど、試合ごとに成長を感じる。ここ（両ロック）が伸びると随分変わると思う」と述べ、「前回（W杯）メンバーでいくと中村亮土、P・ラブスカフニ、リーチ、姫野和樹選手らは核になるだろう」と続けます。一方、別の「気になる」という意味で「松島幸太郎選手はまだ戻っていない感じがして少し不安。福岡堅樹選手が引退したので、松島選手がいてもらわないと。でも元気がなかった。この一年で戻してもらいたい」と復調を切望します。

このように、ここで名前の挙げた選手だけを見ても選手が伸びていることは間違いないことから、「もっとチームとしてオーガナイズされればもっと強くなるはず」と日本代表の伸びしろを示唆。また、堀江翔太選手（H0）ももうすぐ帰ってくるという村上氏からの嬉しい情報も聞けましたが、厳しい戦いを勝ち抜くためには、メンバーが2チーム分くらいないとベスト8にはいけないと選手層の厚さも必須条件の1つと提示。その理由の1つとして、ここで村上氏がとある写真を見せます。



2枚の写真には、山中亮平選手とイングランド代表のフレディ・スチュワード選手（FB）、そして李 承信選手とフランス代表のロマン・ヌタマック選手（S0）が写っています。それぞれ同じポジションの選手同士のツーショット写真ですが、体格差が目瞭然。そんなことは、昔から

分かっていることですが、前段で平尾氏のコメントにもあった通り、日本代表が強くなって「勝つのが当たり前」のような意識になっているファンが多い気がする」と村上氏。そこで、「いま、日本代表が成し遂げようとしていることは非常に難しいことへの挑戦なんです」ということを再認識するために、この写真をこの場で披露してくださいました。「実際、山中選手においては、188cm、98kgと日本国内で見ると、かなり恵まれた体格のラグビー選手ですが、世界を相手に戦うとなると、この体格差がある中で、勝たないといけない。ボクシングにたとえると、ヘビー級とミドル級みたいな戦い。こういう大変な戦いに挑んでいるということを知

っておいてもらいたい」と間近で選手たちのトレーニングを見続け、そのハードさ、タフさを知る村上氏からの熱い言葉が実に印象的でした。

ここから話題は一転、女子ラグビーに。男子ラグビーに比べると圧倒的にメディア露出の少ない女子ラグビーセブンズ、そして15人制の大会、試合結果について語ります。スクリーンには、ラグビー女子日本代表チームの戦績が映し出されました。ラグビージャーナリストとして女子ラグビーもウォッチする村上

氏。「9月に開催されたセブンズの大会は、1つ負けたら9位以下に回るというもの。もし初戦のフィジーに勝てていれば、もっと上（今回9位）に行けていた可能性がある。日本はセブンズが強くなっていく可能性がかなりある。鈴木貴士さんがヘッドコーチになり、強化にも力を入

れている。水谷咲良さんという（19歳）の若い選手もいて、フィジカルも強い。他にもいい選手がいるので、どんどん伸びていくと思う。女子は15人制より7人制が軸になっている。国内で15人のメンバーを揃えられるチームが少ないというのが実情。そんな中で15人制の大会でも、この試合結果はなかなか凄い。この一年で日本の女子ラグビーはいろんな歴史を作ったと思う」とコメント。また、この秋から静岡を本拠地として活動する女子ラグビーチーム「アザレアセブン」のスキルコーチを務めている正面氏も女子ラグビーについてこう評価します。

「女子のセブンズには、太陽生命カップという大会があって、僕が教えているアザレアも出場していますが、今後参加チームが増える予定なので、もっと激しい大会になると思う。この日本代表の9位という結果も悪くないし、伸びしろが凄くあると思う」。

平尾氏は15人制女子日本代表新監督のレスリー・マッケンジー監督について言及。「研究者の道もありながらラグビー指導の道を選んだ。

『ラグビーだけではダメ、常に様々なものに興味深くありたい』というコメントが載っている記事を読ん

だ。そういう人だからこそ、こういう結果が出せたのかなと思った」と平尾氏。これを受けて村上氏が「そこにいる人たちが求めていることを達成させるための仕事をするのがコーチだという信念があるそう」とマッケンジー氏について述べ、「そんなコーチのもとでラグビーした

女子7人制日本代表（サクラセブンズ） RWCセブンズ2021南アフリカ大会結果		
1回戦	7●36	フィジー代表
9位決定準々決勝	14○12	南アフリカ
9位決定準決勝	19○10	ブラジル代表
9位決定決勝	17○12	ポーランド代表
日程：9月9日～11日		



女子15人制日本代表（サクラフィフティーン） テストマッチ結果		
9月24日	日本代表 12 ● 95	ニュージーランド代表
8月27日	日本代表 29 ○ 10	アイルランド代表
8月20日	日本代表 22 ● 57	アイルランド代表
7月30日	日本代表 10 ● 20	南アフリカ代表
7月24日	日本代表 15 ○ 6	南アフリカ代表
5月10日	日本代表 12 ○ 10	オーストラリア代表
5月6日	日本代表 24 ○ 10	※オーストラリアバーバーリアンズ
5月1日	日本代表 28 ○ 14	フィジー代表



かったな（笑）」と平尾氏が現役時代を振り返り、冗談まじりに本音を漏らす場面もありました。

女子選手の指導は男子に対しての指導と違うか？という平尾氏からの問いに、「男子大学生の方がスキルのには正直高い。ただ、女子の指導に戻ったときに、スキルは男子の方が高いけど、女子はうまくなりたい！と意欲的で吸収力がある気がして、やりがいを感じ

る。人の成長を見られるというのが凄く楽しい」と女子選手の指導の面白さを口にする正面氏。自身も親和女子大学で、ラグビー初心者女子に、ラグビーの指導をしている立場として、「いまの時代、ジェンダーで区別するのはどうかとも思うけど、女子の特徴として、女子は信頼関係ができたときのリアクションが明白。吸収しようという姿勢が見える」と女子選手のリアクションの良さという点で、正面氏と同じ印象を持っているようです。

女子ラグビー発展の課題として15人制チームの少なさと国際試合経験の少なさが挙げられましたが、その一方で、その環境と男子以上に体格差があるなかでの、世界ランク13位という成績に、驚きを隠せない様子の3人。遠征費などを自費で賄う選手が多い女子ラグビー界をサポートしてくれるよう平尾氏がスポンサーをよびかえる一幕も。SCIXとしては、7人制女子ラグビーの大会「SCIXカップ」を毎年主催していることもあり、男子のみならず女子ラグビーのさらなる発展を願うばかりです。

会も終盤に入ったところで、7人制と15人制の掛け持ちの難しさや、12月にラグビー「リーグワン」が開幕し、大学選手権、高校ラグビーとラグビーづくりのシーズンが始まるという話題に移行。公式発表があったばかりの「アーリーエントリーというシステム（チーム加入が決まっている大学生が1月から試合に出場できるという新しい試み）」や、コロナ対応の変更（コロナの検査結果を試合の48時間前で判断するので直前の試合中止がなくなり、コロナによる試合中止の勝ち点は5から4に）についても村上氏から説明がありました。

W杯イヤーとなる年のリーグは、選手たちも代表メンバーに選出されようと必死になるため、例年より熱くなることが予想されます。正面氏は、自身の現役最後に所属していた花園近鉄ライナーズが今年リーグワンに昇格したこともあり、古巣の活躍に期待を寄せている様子。コベルコ神戸スティーラーズの海外からの戦力補強に「どこにそんなお金があるんでしょうね？（笑）」という発言も飛び出し、各チームの外国人移籍選手にも注目が集まります。なかでも、横浜キャノンイーグルスに加入した、世界的スクラムハーフ、ファフ・デクラーク選手のプレーにはラグビーファン全員が熱い視線をおくることでしょう。W杯2019日本大会で頂点を勝ち取った南アフリカ代表・スプリングボクスの9番として活躍した、あの選手のプレーを再び日本で観られるチャンス。これは観戦せずにはいられません。講師陣からも「デクラーク観たさに、お客さんも結構入るでしょうね」とのコメント。イギリスのヘンリー王子の訪問も

金メダルを首から提げ、パンツ一枚で対応したことから、南アフリカの国旗柄のパンツを履いていることでも有名なデクラーク選手ですが、実はあのパンツ、デクラーク選手自身が作っているらしいとのこと。キャノンでも、キャノン仕様のパンツを作り、お揃いのパンツでチームの一体感を生み出すことだろうと、村上氏から舞台裏の話も聞くことができました。W杯2023フランス大会を控え、開幕目のリーグ ONE の話で盛り上がった今回の『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』も残り時間あとわずかとなり、質疑応答タイムに。

オンラインとリアルにて下記のような質問が寄せられ、講師のお二人、そして司会の平尾氏により回答、意見がされました。時間の都合上、ご紹介できないものもございましたがご了承のほどお願い致します。



～質疑応答タイムで寄せられた質問～

Q 世界トップクラスのチームと接戦しているが、もう一皮剥けるためには？

Q スポーツ活動や普及活動が学校から地域に移行しつつあるが、ラグビー協会

は底辺を広げる意志はあるのか？

Q 女子ラグビーが今後発展するためには？

Q 同志社大の苦戦について、解説お願いします。

Q 大学選手権での、天理、京産の可能性についてお願いします。

今回も参加者の皆様からのご感想、ご質問ありがとうございました。終了時刻の20時30分となり、第2回『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』も閉幕。大きな拍手で見送られ、講師らが退出しました。多数の皆様のご参加、誠にありがとうございました。

次回は12月10日（土）19:00より、順天堂大学スポーツ健康科学部 客員教授で株式会社CORAZON チーフコンサルタントの荒木香織さんと、関西学院大学アメリカンフットボール部前監督の鳥内秀晃さんをお迎えし、「ラグビーで定着した『共同キャプテン制』は、“リーダー像”をどう変える？」をテーマに開催させていただきます。次回も多数のご参加お待ちしております。

（レポート 中野里美）

スポーツ振興くじ助成事業

スポーツくじ

